

平成21年度地域スポーツ指導者育成推進事業 取組事例

都道府県名	神奈川県	受託団体名	NPO法人FCゴール
-------	------	-------	------------

事業テーマ	地域とスポーツの関係
【テーマ設定の理由】	
<ul style="list-style-type: none"> ・専門スポーツ領域外の視野の拡大を図り、学校地域とともに活動し、子ども達と共に成長する指導者の育成を公共施設、学校利用団体スポーツ指導者と連携しながら実践し家庭・学校と運動しながら、子どもの健全な育成と地域スポーツ振興を行うムーブメント再構築する。 ・地域スポーツに総合型地域スポーツクラブの必要性を訴え、設立機運を高める。 	

地域スポーツ指導者育成推進委員会	
海老原修(横浜国立大学)	中村和彦(山梨大学)
清水隆一(キャリアパーコーチングカレッジ(株))	福島博(横浜市教育委員会)
川口宏(横浜市体育協会)	松本研(横浜市議員)
中村真一(市立中学校教員)	佐々木良介(日本体育協会スポーツドクター)
吉野次郎(中区サッカー協会)	熊谷孝一(横浜YMCAスポーツ専門学校)
細貝貞夫(YC&AC)	塩浦健吾(県立体育センター)
亀谷学(県立体育センター)	進藤隆秀(県教育委員会)
遠藤晃弘(県体育協会)	河合豊(県教育委員会)
中村勝則(横浜マリノス株式会社)	吉江明洋(市立中学校教員)
齋藤清美(県立高校教員)	勝山宏美(市立中学校教員)
細野太郎(県立高校教員)	半谷真一(FCゴール理事長)

受託団体名	NPO法人FCゴール
-------	------------

【受託団体概要】			
・設立年月日	平成 19 年 2 月	設立	平成19年 5月10日NPO法人認証
・所在地	〒231-0047 神奈川県横浜市中区羽衣町3-84横浜市立吉田中学校内 FCゴールハウス2007		
・特色	スポーツを楽しむ、仲間を大切にする、文化・歴史を学ぶ、子どもと一緒に大人が成長し続ける。 スポーツの新しい姿と仕組みを学校・行政・地域の方々と一緒に考えチャレンジをし続ける。		
・会員数(H21.7.1現在)	150	人	・定期活動種目数 4 種目
・平成21年度総予算額	4,874,336 円		

①地域スポーツ指導者育成推進委員会

◆実施概要

平成21年7月8日(水)

- ・平成20年度地域スポーツ指導者育成推進事業の報告
- ・平成21年度地域スポーツ指導者育成推進事業の概要説明 ・その他(意見交換)

事務局より、本委員会は設置要綱に従って開催されることが説明され、委員長は、海老原委員が委員一同の賛成をもって委員長に選出され、半谷理事長より委嘱された。

検定に関しては、昨年同様にレポートの提出をしていただく。参加者の規模は、60~100名を想定しているが、市内に300の小学校と150の中学校があるので、今年度のテーマを考えると、そこから一人ずつは参加してほしいと考えている。

平成21年9月2日(水)

- ・委員補充について ・平成21年度地域スポーツ指導者育成講座進捗状況について
- ・平成20年度地域スポーツ指導者育成講座修了者の追跡調査について ・その他(意見交換)

河合豊氏(県教育委員会スポーツ課)、中村勝則氏(横浜マリノス株式会社)、吉江明洋(私立南が丘中学校)の3名が補充されたことが報告された。

追跡調査により、修了書発行者の今後にどのように活かされているのか、この講座の意義の裏付けが取れることを見込んでいます。結果によっては県全域に発展することも考えられる。

アンケートの方法、中身などは海老原委員長のアドバイスを受けることにより、より具体的な結果が得られることが期待される。

平成21年11月4日(水)

- ・平成21年度地域スポーツ指導者育成講座進捗状況について
- ・平成20年度地域スポーツ指導者育成講座修了者の追跡調査について ・その他(意見交換)

追跡調査用アンケートはサイレントマジョリティを聞き出せるのでフリーアンサーの項目はあった方が良いでしょう。

広報の方法についてだが、学校関係はメールが一般化されていないのでFAXを利用すべき。

募集は横浜市広報を利用する。塩浦委員に協力してもらい学校関係者への呼び掛けを行う。

チラシは6000枚以上を予定している。

平成21年1月13日(水)

- ・平成21年度地域スポーツ指導者育成推進事業受託団体報告会について
- ・平成21年度地域スポーツ指導者育成講座進捗状況について ・その他(意見交換)

受講者の方々に指導を行いたいという思いはあるが、指導を行う場をなかなか提供する事が出来ない。

指導の場を確保するには、学校との連携を取る事が出来れば良い。

学校体育の授業現場などには外部指導者を導入すべきである。それにより、習熟度別による少人数制の対応が可能になり、二極化の減少に繋がる。

学校の現場に入る事が出来れば良いと思うがなかなか難しいのが現状である。

学校は独自の風土・文化があり閉鎖的である。それを打破する事が出来ればいいのだが、予算や安全面の問題も大きな課題である。

外部との関わりは学校長の判断が大きいので、学校長に対して総合型地域スポーツクラブの意義・認知度を高める必要がある。

平成22年2月24日(水)

- ・平成21年度地域スポーツ指導者育成講座について(報告と課題) ・次年度への方向性について
- ・その他(意見交換)

広報の方法に工夫を加える必要がある。学校関係者などをメインターゲットにPR活動を行ってきたが、自分たちが考えるよりも視野を広くしてみる必要がある。校長会・理事会へ出席してPRする機会はあるが、そのタイミングに間に合わなかった。講師の確定から、講座までの期間がもう少しあるとそういった口コミのPRができる。

今後、指導者を目指す体育系の大学などに協力してもらうのはどうか。

次年度では実技講座を取り入れるのも有効。ただし、専門の種目にするかどうかは考える必要がある。いまやっている指導を振り返る材料になるような内容がよいのではないかと。

横浜に本拠地を置くプロスポーツチーム応援のために横浜市の関係者が立ち上げた応援組織「熱闘倶楽部」がある。ベ이스ターズ、マリノス、ヨコハマFCの関係者が地域へスポーツ貢献を行っている。2010年のW杯後、それを材料に連携して、本講座を進めることはできないか。W杯の盛り上がりを利用して、サッカー中心のPRは効果があるだろう。

◆活動の様子



◆評価

本事業をより盛り立てようと、毎回多くの意見交換が行われた。その中で改善すべき点も浮き彫りになり本番までの準備が行われた。
FCゴールにしか出来ない事に取り組もうと皆が意欲的だった。

プログラム作成部会

◆部会のねらい

どの様な講師陣を招き充実した講座を行い、テキストの内容を充実させるか。

◆実施概要

平成21年7月8日(水)

基礎プログラム及びテキスト作成については、熊谷委員と相談の上で、講師の選定とプログラムの内容検討、さらにテキスト作成の調整を進めることが了承された。

平成21年9月2日(水)

会場の確保状況・講師の選定について

会場が取れている時間の中で2コマを予定している(1コマ90分)

講師の方とも話し合い、場合によっては1コマの時間を短縮することがあるかもしれない。

講師予定者は、海老原修氏(横浜国立大学)、中村和彦氏(山梨大学)、清水隆一氏(キャリアパーコーティング)、阿部浩己氏(神奈川大学大学院)、原田早穂氏(元五輪シンクロ代表)、佐々木良介(整形外科医)、井田勝道氏(静岡学園サッカー部)、高峰修氏(明治大学)、松尾哲矢氏(立教大学)、村山哲二氏(ジャパン・ベースボール・マーケティング)、間野義之氏(早稲田大学)の11名である。

平成21年11月4日(水)

講師陣・日程が決定

会場

YMCAスポーツ専門学校(湘南とつかYMCA内)

2010年1月30日(土) 15:00~18:00

中村和彦氏【ジュニアスポーツの考え方】、村山哲二氏【スポーツが地域を変える】

1月31日(日) 15:00~18:00

松尾哲矢氏【スポーツ指導者に求められるもの】、井田勝通氏【子どもたちの10・20年後をイメージして】

2月6日(土) 12:00~15:00

海老原修氏【地域スポーツの考え方】、山口良治氏【熱き感動を求めて!】

2月21日(日) 15:00~18:00

高峰修氏【地域スポーツの中でのジェンダーの考え方】、清水隆一氏【コミュニケーションスキル】

4日間全8講義

申し込み締切日は2010年1月20日(水)とし、定員は200名とする。

県全域で募集をするが横浜市内の参加者を優先とする。

募集は横浜市広報を利用する。塩浦委員に協力してもらい学校関係者への呼び掛けを行う。

◆活動の様子



◆評価

ジュニアスポーツに注目した講師陣を招く事が出来た。小中学生を指導している関係者の方々も多く参加して下さっていたので満足のいく選定だったと思う。

発掘部会

◆部会のねらい

多様化するスポーツニーズに対応するため高度な専門知識と実践的指導力を持ち合わせたスポーツ指導者育成と人材の発掘を行う。
学校・家庭・地域においてスポーツをツールにコーディネートできる人材の発掘と育成を行う。
市内の学校開放利用関係者には講座のアピールを積極的に行う

◆実施概要

平成21年11月4日(水)
申し込み締切日は2010年1月20日(水)とし、定員は200名とする。
県全域で募集をするが横浜市内の参加者を優先とする。
募集は横浜市広報を利用する。塩浦委員に協力してもらい学校関係者への呼び掛けを行う。
市内の学校開放関係者をメインターゲットとし広報を行いたい。

◆活動の様子



◆評価

今回のメインターゲットを学校関係者に置いていたので、市内小学校、中学校・県立高校にチラシを配る事が出来た事は大きな意味がある。ただ、それらに目を通してもらえない現実がある。
改善策としては校長会などに出席させていただいて直接アピールを行っていく案などが話し合われた。

基礎講習会

◆講習会のねらい

指導をする上で、気を付けるべきこと、知っておくべきことを伝えていただく

◆実施概要

【日時】1月30日(土)15:00～16:30

中村和彦氏【ジュニアスポーツの考え方】

日本の子供たちの体力の減少は世界的に見ても著しい

現代の子供たちは工夫をする事が出来ない。物事を始める時には全て用意されているので失敗経験が少ないからである。自分で考え、工夫させることが大切。

【日時】1月30日(土)16:30～18:00

村山哲二氏【スポーツが地域を変える】

地域に愛される選手になるよう自分たちBCリーグの理念を選手たちに認識をさせる。

プロになれずに地域の企業に就職する選手もいる。

それは、なによりも地域へ恩返ししたいという意識があるから。

試合後には選手たちが子ども達に指導を直接行っている。

【日時】1月31日(日)15:00～16:30

松尾哲矢氏【スポーツ指導者に求められるもの】

今までの指導法は一方的、押しつけ的な指導法が多かったが、これからは自己観察中心、問答法などで自分で意識させ気付けさせることが重要。問答法により自分の世界観を認識させ、その世界を大切にしながら理想像へと近づけていく。

【日時】1月31日(日)16:30～18:00

井田勝通氏【子どもたちの10・20年後をイメージして】

子どもの10年・20年先のイメージを常に持つことにより余裕が生まれてくる。

目標を持つことによって指導者としての自分に負担をかける。

自分の未来の為にハングリーになる、それは子ども達のためになる。

【日時】2月6日(土)13:30～15:00

山口良治氏【熱き感動を求めて！】

【日時】2月6日(土)12:00～13:30

海老原修氏【地域スポーツの考え方】

【日時】2月21日(日)15:00～16:30

高峰修氏【地域スポーツの中でのジェンダーの考え方】

ジェンダーという視点に気付かなくてはならない。

男女を分ける上で安全性の理由が挙げられるが、安全性を求めるならば、もったきめの細かいグループ分けが必要、特に少年期は女子>男子、同性間の体格・体力差も大きい。

身の周りにあるジェンダーバイアスを取り除かなければならない

【日時】2月21日(日)16:30～18:00

清水隆一氏【コミュニケーションスキル】

Mission指導する使命感を、Vision指導するビジョンを明確に持つ、Passionどれだけ熱意を持って選手に接しられるかが重要、全ての選手にMVPを。誇りを持たせ、自分の事は自分でやる。自己責任感目標を持つと生まれる。

自分の将来を思い描くことは大切で、それを実現させる努力は指導者も選手も怠らない。

◆参加者数 109名

◆活動の様子



◆評価

当初の想定には参加人数は届かなかったが参加して下さった方々には満足していただけた。

参加下さった方々に仲間にも聞かせたいという評価をいただいた。良い講座を実施出来た手応えを感じられる意見だった。

本事業の成果

具体的な数字目標があるわけではないので、参加者人数に関しては多いか少ないと捉えるかは、各々の判断によるが、我々FCゴールとしては非常に充実した講座を設けることが出来た。
参加してくれた方からの手ごたえはあった。二俣川のはまっこ関係者は、「みんなに聞かせたい。」と感想を寄せてくれた。地域でスポーツ指導をしている、小学校副校長から「感激した。」という感想をもらった。日本ボーリング協会の関係者は「総合型クラブへ無料で会場を貸してもよい。」と熱弁されていた。総合型地域スポーツクラブの意義を理解して頂けた。
受講下さった方々には充実した「お土産」を持ち帰って頂けたと感じる。自分たちで指導者を育成する感覚を感じられた。

本事業の課題と今後の取組

質的・量的には受講者の方々にも好評を得ることが出来た。今後の課題としては、やはりもっと多くの方々に講座を受講していただきたい。次年度は県全域に規模を広げていきたいと考えるが、今回の課題にも挙げたように、広報の方法などは考えなければならない。実技講座を取り入れてみたい。
本事業を通して他団体の方々ともコミュニケーションを取る事が出来た。受講者間での交流も広まったように感じる。今後は、こういった方々とも交流を取り、より充実した内容の講座を開催したい。

(本件問合せ先： NPO法人FCゴール/045-231-6111)